

本社

石清水八幡宮の本社は、日本最大かつ最古の壮大な八幡造りの神社建築の例です。この社は、1634 年に徳川三代将軍である徳川家光（1604-1651）の下で修造が完了しました。社にある多くの建造物が国宝に指定されています。

参拝者は、2 階建ての門の前で祈ります。その門は社の正面を飾り、中の建物を囲む屋根付きの廊下へと延出しています。門の向こうには、神職が儀式を行う祈祷所があります。この祈祷所は社の本殿につながっています。本殿は、植物や動物、神話上の生き物など 150 点以上の色鮮やかな木彫によって彩られています。

本殿は八幡造りの特徴を持っています。横から見ると 2 つの別々の建物のように見えますが、2 つの屋根を持つ 1 つの建物です。本殿の中は外側と内側に分かれていて、そのどちら側にも 3 つの部屋が並んでおり、3 人の神がそれぞれ祀られています。この 2 つの屋根の間には、著名な武将である織田信長（1534-1582）が寄贈した金色の雨樋があります。